

Think about the workplace, Beyond the new normal

TRAIL
HEADS

はじめに

新型コロナウイルスにより多くの企業が在宅勤務を導入し、私たちは思いがけず働き方の大きな変化を経験することになりました。ソーシャルディスタンスといったNew Normal(新しい生活様式)の中でも、リモートワークは個人の生活や働き方についての大きな変革のひとつといえます。一方で企業は今後のオフィスはどうあるべきかという課題に直面しています。この資料ではこれらの変革を通して見えてきた課題への対応策や、再びオフィスに人を戻すために注意すべき点、そして実際に動き始めたNew Normalに対応するためのオフィス改装の実例等を紹介していきます。

| | |
|---|------|
| Chapter 1 — 新型コロナウイルスにより働き方はどのように変わるのか？ | P.03 |
| Chapter 2 — 感染拡大を防止するオフィスの運用ルール/レイアウト | P.06 |
| Chapter 3 — リモートワークの課題に対処する方法 | P.09 |
| Chapter 4 — 動き出したオフィス改装の実例 | P.12 |
| Chapter 5 — 新型コロナウイルスを超えた先の働き方/働く場の未来 | P.17 |

Chapter

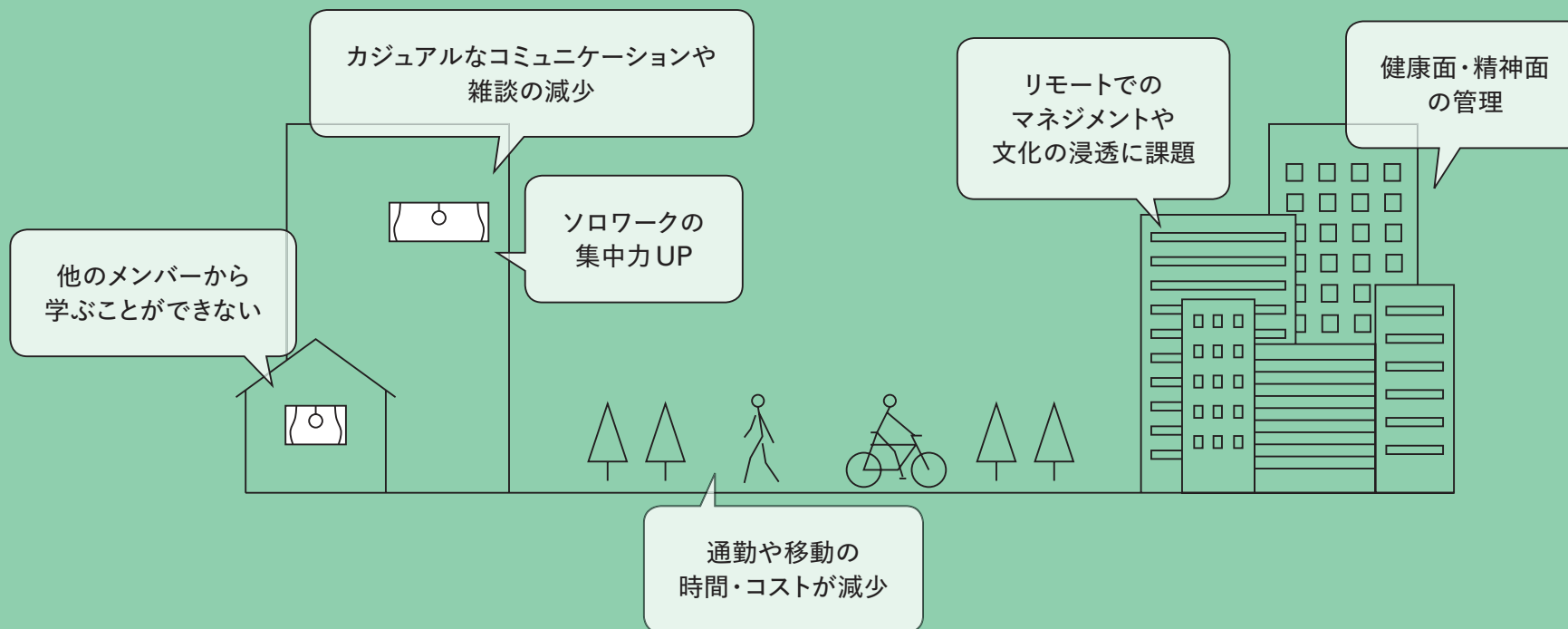
1

How will COVID-19 change your work style?

— 新型コロナウイルスにより働き方はどのように変わるのか? —

—新型コロナウイルスが私たちの働き方を爆発的に変えた—

新型コロナウイルスの影響によりビジネスのルールやマナー自体が変わり、わたしたちはこれまで到底できないと思っていたリモートワークのメリットを経験することができました。一方でそれは選択肢のない働き方ともいえ、リモートワークの様々な課題も見えてきました。



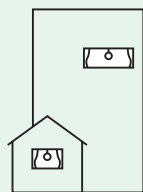
—新型コロナウイルスのフェーズによる働き方の変化—

緊急事態宣言が解除され、まずは安全に働くことができるオフィスが求められます。
 そして優先的にオフィスに戻る必要があるのは誰か？リモートワークをどの程度併用するのか？
 といった働き方の最適解を継続的に考えていくこととなります。今後新型コロナウイルスがいつ収束するのか、
 どのような影響が出るのかは未知ですが、働き方について言えばこの変化は不可逆であり
 新型コロナウイルスを超えた先にさらに新しい働き方が生まれるでしょう。

STATE OF EMERGENCY

緊急事態宣言下

PHASE 1



外出自粛により強制的に
リモートワークが浸透

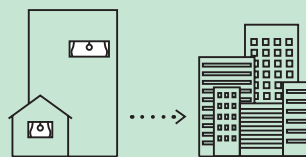


リモート会議の定着
リモートツールの導入

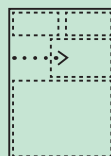
WITH COVID-19

緊急事態宣言解除後

PHASE 2



リモートワークから段階的な
オフィスワークへ

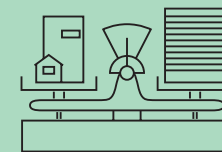


安全を考慮したオフィスの
レイアウトやルールづくり

BEYOND COVID-19

新型コロナウイルスを超えたその先

PHASE 3



リモートワークとオフィスワークの両立



新しいオフィスの役割と
自由な個人の働き方を楽しむ未来

Chapter

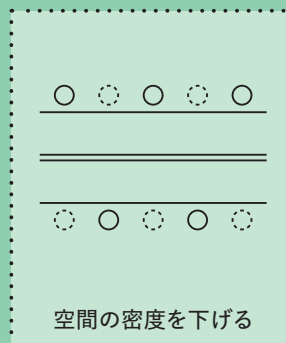
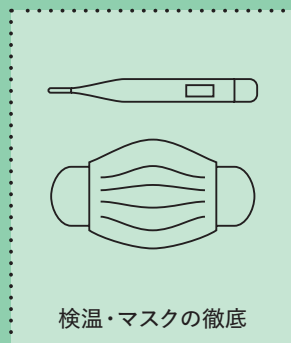
2

Check list for the workplace

—感染拡大を防止するオフィスの運用ルール/レイアウト—

—感染拡大を防止するオフィスの運用ルール—

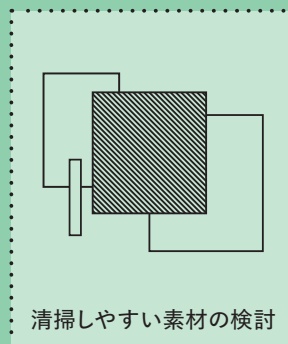
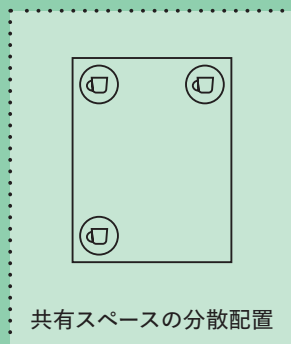
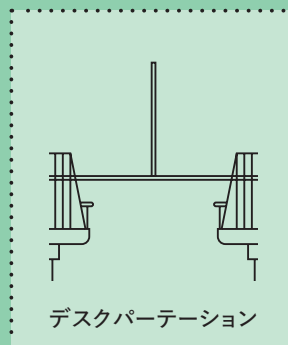
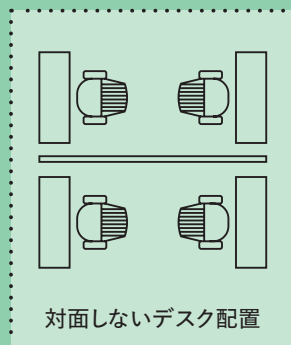
緊急事態宣言が解除されたのちのPHASE 2(WITH COVID-19)の段階では
各社の必要に応じて段階的にオフィスに人を戻すことが想定されます。
安全に働くためにオフィス内でどのような対応をすべきか運用ルールで考慮すべき点をまとめました。



- マスクの着用を義務付ける
- 検温をする
- 体調不良の場合は出社しない・させないようにする
- 定期的な清掃・消毒スケジュールを計画する
- 手洗いルールを決める
- フリーアドレスを廃止し座席の固定化
- 対面しない着席レイアウトでの利用
- 出社人数を減らして空間の密度を下げる

—レイアウト変更による安全に配慮したオフィス—

感染拡大防止のためには人と人の距離を取ることが有効とされていますが、限られたオフィス面積やチームで働く必要性などそれぞれの事情により制約もあります。デスク間の距離を取ることができない場合でも安心して働くための物理的な対策もまとめました。



- 対面しにくいデスク配置
- ソーシャルディスタンスを保ったデスクや機能の配置
- 卓上パーテーションの設置
- 消毒ステーションをワークスペースなど等間隔に設ける
- 共有スペース（給湯スペースや複合機スペースなど）を分散配置することにより密集を避ける
- 清掃しやすい素材の検討

Chapter

3

How to deal with remote work issues

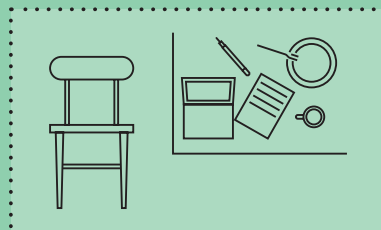
—リモートワークの課題に対処する方法—

—リモートワークの環境整備—

リモートワークを経験したことで、そのメリットと共に課題も出てきました。これまで働くことを想定していなかった自宅の環境を整えることはリモートワークの生産性を上げるために必須と言えます。企業としては通勤や移動のコストが削減された分を社員のリモートワーク環境を整えるために補助するという新しい制度も始まっています。

物理的環境の整備

ダイニングしか働く場所がない

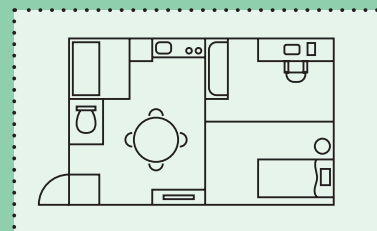
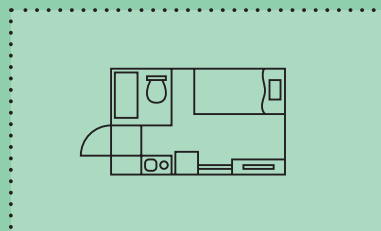


自宅に合う
コンパクトで機動性の
ある家具

単身・一人暮らし

そもそも家で働く場所が無い

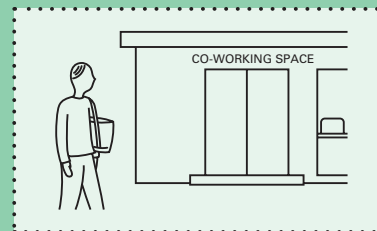
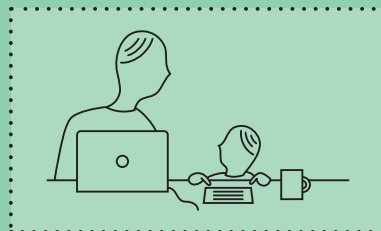
家が狭く働く環境を
整えるスペースが無い



書斎スペースを
確保できる
住居への転居

家族・子育て世帯 集中ができない

子供がいると家の中で働くことは困難
夫婦共にリモートワークで居場所がない



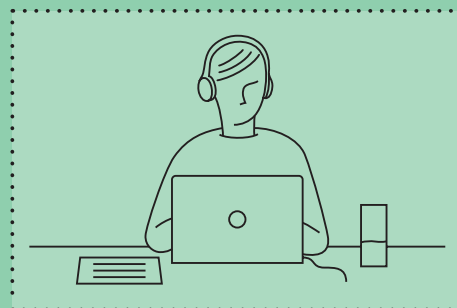
自宅近くの
コワーキングスペースなど
サードプレイスの活用

—リモートワークで気づいたオフィスの役割—

リモートワークで多くの人が生産性が上がったと感じる一方で、オフィスでなければ得られないものに改めて気づかれされました。今後オフィスの役割は、個人の作業の場からよりコミュニケーションや知識を共有する場へと加速していくかもしれません。

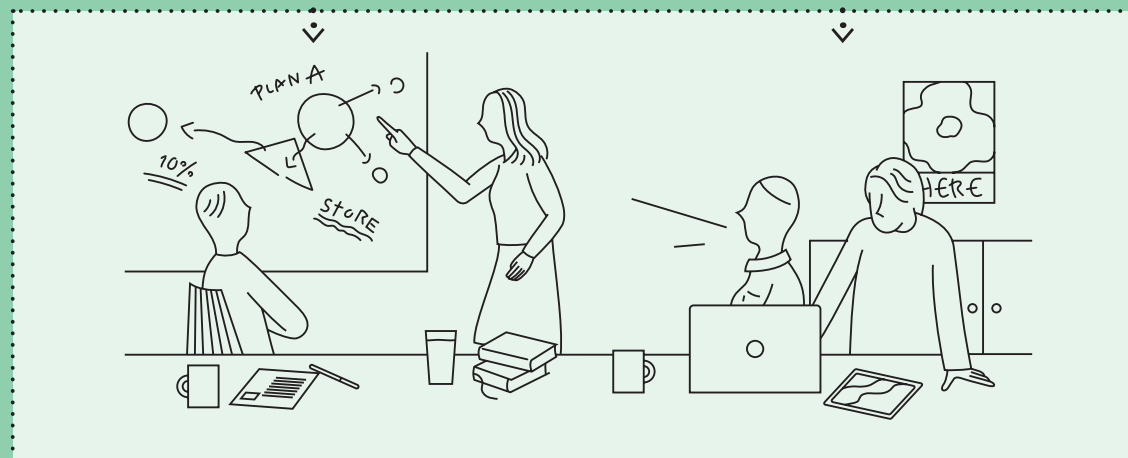
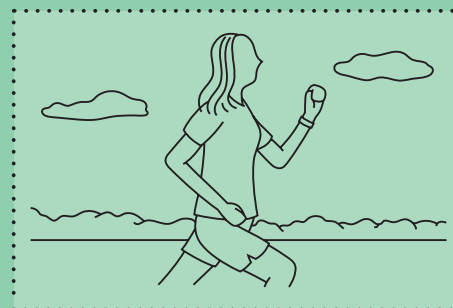
コラボワークの 重要性に気づく

ソロワーク中心だと雑談が減る
効率重視になりすぎる
他メンバーからの学びが減る



健康・精神管理

始業・終業時間、休憩など
ON/OFFの切り替えが難しい



Chapter

4

Examples of office renewal

—動き出したオフィス改装の実例—

Case1

オフィスを縮小移転するケース

6月以降のワークスタイル

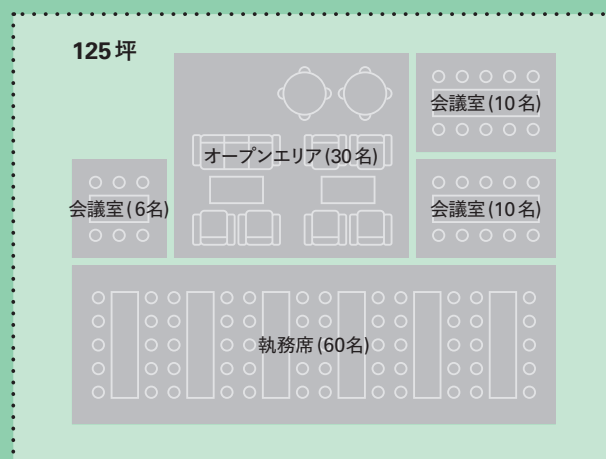
- ・リモートワークの方法：A班B班に分けて出社人数を半分にする
- ・不動産の対応：縮小移転
- ・レイアウトの変更の内容
(執務座席 60 → 30 / 会議室数 3 → 2 / オープンエリア 30 → 20)

Company Profile

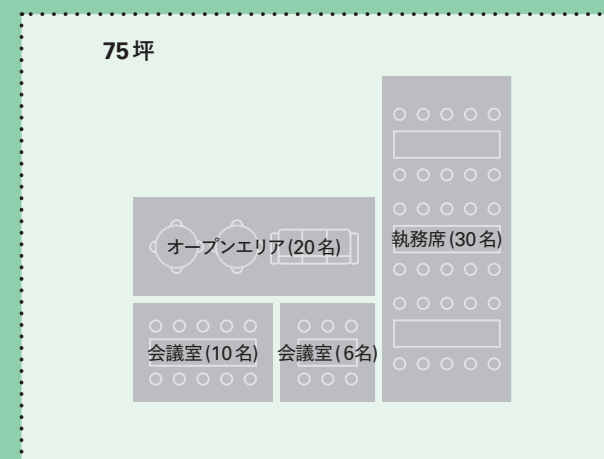
業種：アプリ開発運営
 人員：約60名
 坪数：約125坪→約75坪
 移転予定：3ヶ月以内



Before



After



Case2

2 拠点あるオフィスを、1 拠点に集約するケース

6月以降のワークスタイル

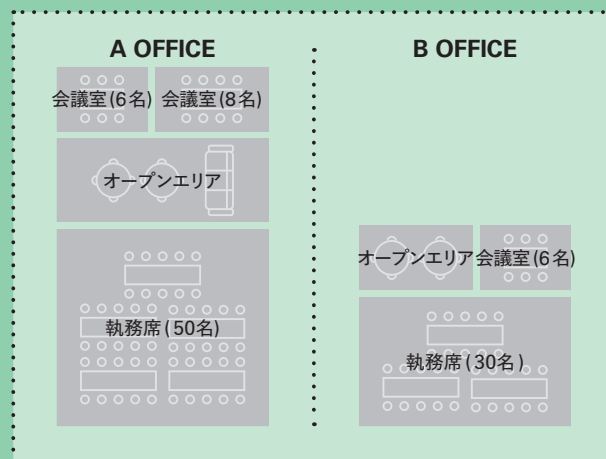
- ・リモートワークの方法：100%からオフィス改装後は約40%に
- ・不動産の対応：2拠点あるうち、1つを解約し1つを改装
- ・レイアウトの変更の内容
(執務座席 50→80 / 会議室数2→4 / オープンエリアあり→なし)

Company Profile

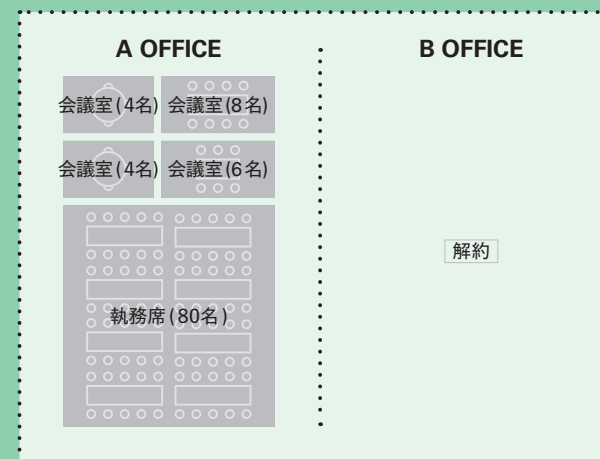
社名：THECOO
業種：アプリ開発運営
人員：約80名
坪数：65坪 & 120坪→120坪
改装予定：3ヶ月以内



Before



After



Case3

オフィスサイズは変えずに、オフィス内のレイアウトを変更するケース

6月以降のワークスタイル

- ・リモートワークの方法：社員をA班B班に分けて、交互に出社
- ・不動産の対応：オフィスサイズは変更しない
- ・レイアウトの変更の内容
(執務座席100→50：ソーシャルディスタンスを2mを確保)
※今後の状況(東京アラートなど)に応じて随時見直す予定

Company Profile

社名：オープンエイト
業種：SaaS事業者
人員：約100名
坪数：約300坪
改装予定：実施済み

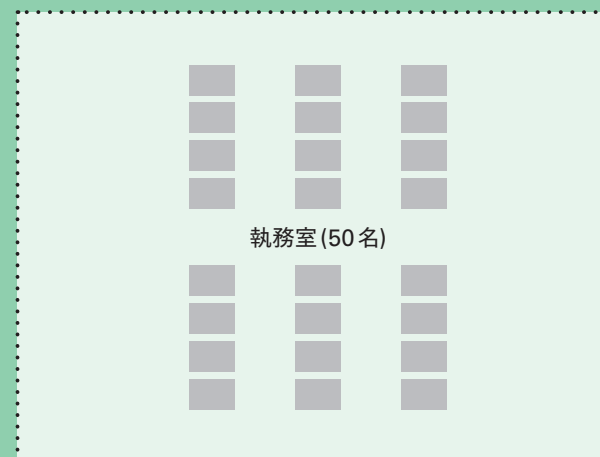


Before



.....>

After



Other Cases

その他、検討されている様々な新しい働き方、 働く場についての事例

A社（ゆとりあるスペースへの改装 + オンライン商談部屋の設置）

B社（オーナーと交渉し、フロアの一部を返却できれば、残るフロアを改装予定）

C社（物件契約期間中だが、代わりに居抜きで入る企業が決めれば、適正サイズの物件に移転）

D社（オフィス内改装。執務席を無くしてMTG室とフリースペースのみ。全社員フルリモート想定）

E社（都心のオフィスではなく、郊外で多拠点化する構想を検討）

Chapter

5

Beyond COVID-19.

—新型コロナウイルスを超えた先の働き方/働く場の未来—

Chapter4までは、新型コロナウイルスにより働き方はどのように変わるのか、実際に動き出したオフィス改装の実例も踏まえて紹介してきました。
世界的にも働き方が見直される時代に突入し、
将来的には個人がより自由に働き方を選択できて、
企業もそのスタイルを後押しするように変化していくのではないのでしょうか？

そこで、このChapter 5では、新型コロナウイルスを超えて、
さらにその先の未来にはどのような働く場や、働き方が考えられるのか
妄想してみましたので、次の5つのカテゴリーに分けて紹介したいと思います！

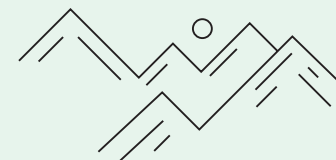
OFFICE

未来のオフィスは、
働く場所ではなくなるかも？



NATURE (自然)

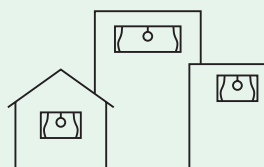
都市から離れ、大自然と共に働く。



5 Categories

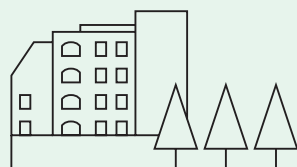
HOME

「暮らす」と「働く」が繋がり、
家具やデバイスもさらなる進化！



CITY & LOCAL

都市や地方のありとあらゆる場所が
ワークプレイス化？



NATURE (自分らしく)

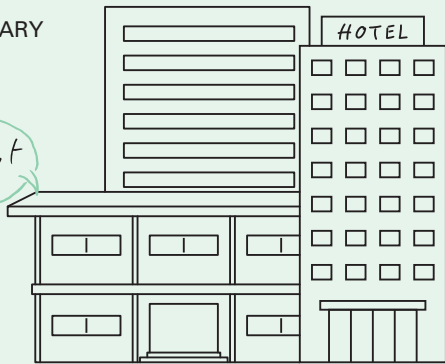
自分の価値観を大切に、
自分らしく働いていく。



CITY & LOCAL

目的や用途に応じて
街全体で働けるようになる

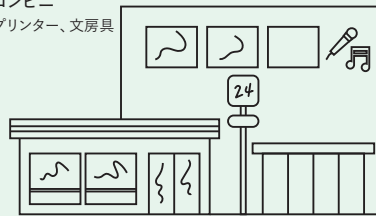
PUBLIC LIBRARY
図書館
無限の資料



HOTEL
ホテル
個室とベッド

集中 &
リフレッシュ

CONVENIENCE STORE
コンビニ
プリンター、文房具



WORKING BOX
オフィスボックス
デスクと高速WiFi

WEBミーティング
&
パフォーマンス

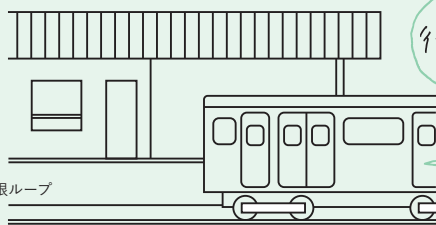
いつでも
どこでも!

CAR PARKING
駐車場
車をオフィスに

WEBミーティング
&
集中



STATION
駅
移動の隙間時間



移動中OA
コーナー

TRAIN
電車
山手線無限ループ

集中 & 移動力

PARK
公園
街中の自然



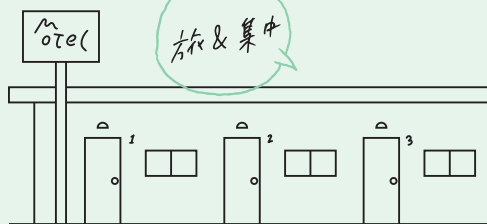
集中 &
リフレッシュ

クリエイティブ



MUSEUM
美術館
アートと静寂

ZONE
&
無限のアイデア



旅 & 集中

MOTEL
モーテル
旅先でも



副業石炭

SHOPPING STREET
商店街
軒先で商売しながら

雑談
& 出会い

PUBLIC
公民館
ローカルコミュニティ

TEMPLE
神社仏閣
座禅と瞑想

OFFICE

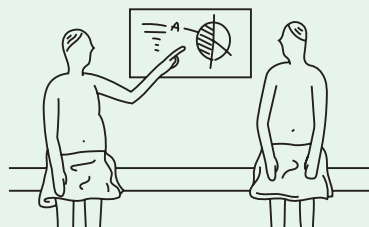


PARTY ONLY

リモートワークが中心になることで、オフィスは社員が集いイベントスペースのように使われることが増えます。イベントが多数開催される企業が、人気の一つに!? Premium FridayでPartyしようぜ!!

SAUNA IN THE OFFICE

チームメンバーが共にサウナを楽しんだり、未使用時は個室としてオンライン会議室も兼用出来ます。画面越しに相手にインパクトを与えられるため、コミュニケーションのネタにも良いですね。場も部屋もHOT!!



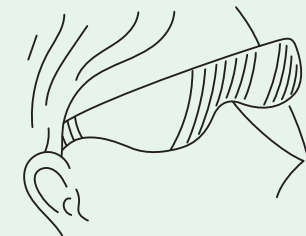
OTHER IDEAS

- ・オフィスリアルおかん：オフィスにお母さんの存在がいることで皆のよりどころに。話し相手がいる安心感と、相談役としてメンターにも◎
- ・足湯オフィス：冷え性の人には最高。健康促進とリラックスでパフォーマンスもアップ間違い無し!
- ・配信STUDIO：リモートワークで希薄となる企業カルチャーを浸透させるため、オフィスは社内番組、社内ラジオを配信出来るスタジオになります。社員はリモートで聞いても良いし、スタジオ乱入もOK!

HOME

VR WORK DEVICE

ヘッドセットを装着している間は、自宅の家具が最高の家具に見えます。脳からの伝達により、固いダイニングチェアも座り心地の良いチェアに感じられるため、腰痛持ちには欠かせないアイテムですね。。。。



二毛作BED

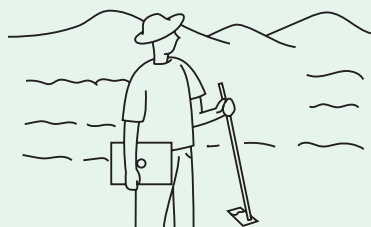
ベッドに自動昇降機能を搭載。スイッチ一つでベッドが上昇し、ワークスペースが登場する! 仕事に区切りつけないと寝れないので、家族からバッシングを受ける恐れがございますのでご注意ください。



OTHER IDEAS

- ・二毛作バス：お風呂を使用していない時はスイッチ一つでワークスペースに変貌する超ハイブリッドユニットバス。オンライン会議室にも◎
- ・睡眠WORK DEVICE：使用中は夢をコントロール可能。夢の中でも仕事ができる夢のような商品。こちらはBLACK企業向け! 「社畜」を抱えたい方にオススメ

NATURE (自然)



自給自足を極める

郊外のオフィスではどの会社でも畑や家畜のお世話をしている兼業農家。仕事の対価は育てた農産物でも良いし、家で焼いたパンでも良い。サービスの交換でも良い。お金だけでは無い対価で持続可能なコミュニティが作られます。

オフィスキャンプ

オフィス「ビル」ならぬ、オフィス「キャンプ」では自然の中でもがっつり仕事をするために最適なインフラや家具が揃っています。今日はキャンプに出社しています!今日はキャンプで打合せしましょう!が日常。



OTHER IDEAS

- ・遊牧する本社：リモートで働くメンバーが月に1回集まったらそこが本社。本社の場所はメンバーの希望や季節により移っていきます。今月は北海道で、来月は沖縄で。1週間の滞在でまた各メンバーは散り散りに。
- ・モバイルオフィス：トレーラーにオフィス機能を詰め込んで世界中好きな場所に移動して働けます。

NATURE (自分らしく)

BACKPACK WORKER

旅をすることがとにかく好きだから、職業は旅人。仕事の合間に旅を楽しむのではなく、旅をしながら合間に働くスタイル。価値観の転換!!



働いて健康になる

家の中で働いていたら太った?いえいえこれからは動きながらエクササイズ!室内で自転車漕ぎながら打合せ、ランニングマシンの上で資料を読みます。しかも同じ環境の世界中のワーカーと走った距離を競ってモチベーションUP!!



OTHER IDEAS

- ・コピーロボット：自分の分身であるAIが仕事の一部を代行してくれます。単純作業であればAIの方が速いよね!って事で空いた時間に本体はアップデートしてきまーす!
- ・過去の自分とプレスト：保存された自分自身の過去の記憶やアイデアとプレストや議論ができる記録サービス。一周回って新しい!って事あるよね。時には過去の自分にお尻を叩かれたり...

Afterwards

最後に

2012年に新しい働き方に向かって仕事をしている人取材したBEYONDWORKINGというメディアをスタートしました。その後、働き方をデザインするや働き方改革などの言葉が一般的になり、欧米ではWORKとVACATIONを掛け合わせたWORKATIONという言葉が生まれたのが4年前くらいだと記憶しています。そしてその言葉が今は一般的にもなりつつあります。

当時BEYONDWORKINGで取材している人は、仕事に自分らしい暮らし方や遊び方をミックスしている人が多く、個人的にもそのような人たちの仕事ぶりや遊びぶりにとても魅力を惹かれました。そこで見たスタイルが『働く、暮らす、遊ぶ』をシームレスにつなげるというTRAILHEADSのVISIONになりました。

思いがけぬ未知のウイルスで強制的に働くことと暮らすことが繋がり、日本だけでなく世界的にも働き方が見直さ

れる時代に突入しました。個人が自由に働き方を選択でき、企業もそのスタイルを後押しする次の未来には『遊ぶ』ことがどのように融合されていくかを妄想しながら新しい空間や概念について考えてみました。

Chapter5では、『Office』『Home』『City&Local』『Nature(自然)』『Nature(自分らしく)』の5つのカテゴリで妄想ワークスタイルをトレイルヘッズメンバーで考えてみました。実現しそうなアイデアもあれば突拍子もないアイデアもあり、メンバーでワクワクしながら新しい働き方や暮らし方、そして遊び方を見つめ直しました。創業時から目指すべきところは変わらないので、これからも定期的にレポートを発信し続けたいと思います。一緒にJOINしたい仲間があればぜひ声をかけを。働き方の未来は明るい!

仲間としてJOINしたい方や企業はこちらより
新しいアイデアを一緒に実現したい、



TRAILHEADS, Inc. 山口陽平

Company Profile

会社概要

会社名

TRAIL HEADS,Inc. / トレイルヘッズ 株式会社

設立

2014.09

代表取締役

山口 陽平

資本金

1,000万円

事業内容

- ・オフィス・商業空間のプロデュース
- ・コワーキングスペース『MAKITAKI』の運営
- ・会員制キャンプ場『HINOKO』の運営
- ・モバイルオフィス『OFFICE CARAVAN』の運営

住所

富ヶ谷オフィス 〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1丁目31-10 101

檜原オフィス 〒190-0213 東京都西多摩郡檜原村下元郷43-1

VISION

BACK TO NATURE

NATUREは、「ありのまま」や「原点」という意味と、山や海といった「自然」のことを表す。

わたしたちTRAIL HEADSは「働き方」の拡張をおこない、「働く場」が持つ課題を解決するフィールド・デザインの会社です。企業や人間が本来持つ「らしさ」を引き出し、働くフィールドの提案・デザインをしています。

フラットな状態に立ち返り、誰もが自分にとっての心地よさを追求できる環境を選べるように。シームレスで「自然な」あり方の実現を、まずは、オフィスというフィールドの工夫から。

We are updating!!